2008 春 SINCE 1983

NETWORK TERRA VOL.130

テラコンソーシアム版

「女の子？男の子？」

>>> いつだって、どこだって、親は親。

上の写真の子ども、ミャンマーの少数民族ポオーの貧しい村の子どもですが、この子の性別がわかりますか？答えは女の子です。どうして判るのでしょうか？それは、この子どもの耳にヒモが通してあるからです。なぜ、耳にヒモが通してあるのでしょうか？少数民族の風習？いえいえ、違います。これは、親の愛情の証なのです。

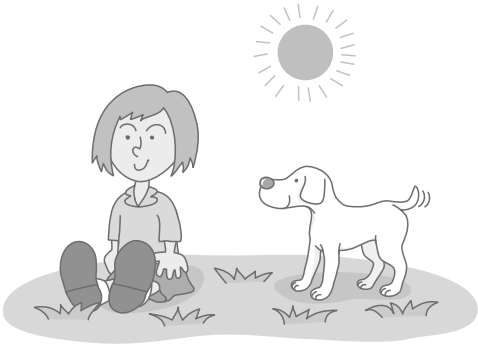
ポオー族では、お金が溜まればすべて金（きん）に換えます。お金は政府に何かあればあっという間に価値がなくなります。この国ではそのようなことが良く起こってきました。ですから、政府が変わっても価値が変わらないもの＝金（きん）を大切にするのです。そして、親は子どものために金製品を買い与えます。特に女の子にはそうします。男の子は大体、家の畑などを継ぎます。しかし、女の子は結婚して家を出て行くケースが多いですから、何か財産を分け与えるということをしません。しかし、自分の子どもは男の子だろうと女の子だろうと心配なのは変わりません。ですから、女の子にはもし何かがあって、お金が必要になったらすぐにお金に換えられるように、女の子には金（きん）製品を与えるのです。金（きん）製品の中で一番小さくて買いやすいのはピアスです。ですから、女の子が生まれたら金のピアスをまず買ってあげるのです。そのために生まれたばかりの女の子の耳にピアスの穴をあけるのがポオー族の習慣になっています。

しかし、貧しい家ではピアスのための耳に穴を開けても、金（きん）を買ってあげることができないので、ピアスの穴が閉じてしまわないようにヒモを通しておくのです。この写真のような耳にヒモが通している女の子に会うと「いつか家にお金ができたら、この子のために金（きん）を買ってあげよう」という親の気持ちが痛いほど感じられます。そして、あぁ、世界中の親はみんな自分の子どもが大切で、そして心配でたまらないのだなぁとも考えてしまいます。

私が出張で1週間強ミャンマーに行くとき、70歳を越した私の母は必ず、「大丈夫か」と心配して電話をかけてきます。いくつになっても親の子どもに対する気持ちは変わらない、つまり、世界中のどこでも、どの時代でも、みんな親は、子どものことが心配なのだということなのでしょう。

CONTENTS ■ 2008春

第三の眼	会長 古賀武夫	2
■地球市民の会		
ミャンマーエッセイ	森中紘一	3
タウンジー便り	山内一平 杉山史恵 柴田京子	4
自然農シンポジウム	畑　恵子	5
タイ高校生訪日	窪川　智	6・7
青年海外協力隊レポート エチオピア 「アベベを生んだ高原の国」	大神貴謙	8
第2回会員のつどい＆新年会	落合精一	9
協力者一覧		別紙折込
■夢の学校をつくる会		
19年度　おかしら こがしら 紹介		10
思い込みをはずせば、 新しい可能性が見えてくる	土井美智子	11
なぜ今「筆文字」なのか	富永將暉	11
■古賀英語・空手道場		
道場からボリビアにひっと出た！	梅崎かほり	12
■共同執筆		
編集後記 ひとこと「私のミーハー話」 事務局住所、事務局スタッフ一覧		13
4～6月のお知らせ		14



世界の平和と親善　地域社会の向上発展

第三の眼

結局は、知足安分か

地球市民の会　会長　古賀武夫

徒然なるまま考えた。

人は、何のために生み出されたのか。他の生命体よりも巨大、かつ、多様なる欲望と知恵を授けられながら、殺し合い、地球環境の危機等を生み出してやまない、人間とは何なのか。

私は、人は、その大いなる欲望と知恵という能力を駆使し、他の生命体には比較にならぬ大いなる幸福感、真、善、美の大調和を知ることではないかと思える。人類としても、個体としても、それらの能力を使い、その境地に至らしめるところに、最終的なる神仏の意思があるのであって、決して中途半端で終わるべきものではない。

しかしながら、これまで15万年程の現代人の歴史を顧みると、まったく逆の方向に向かっているとしか思えない。欲は更なる欲を、戦いは更なる戦いしか生んでいない。欲から生み出された戦いは多くの人を不幸と絶望に導いている。その戦いを可能にする武器も武器を作り出すために必要な科学技術も"進歩"し、新たな武器と科学技術を生み出していく。つまり、武器を止めるには、武器では不可能であり、科学技術の矛盾的進歩を是正するに、科学技術では不可能だということだ。

宇宙から見た地球は命の塊に見えるそうである。もちろんそこには、国境線は無い。5000万種以上の生命を宿した惑星である。しかし、その人類5000万種のうちの1種類でしかない人類は、身勝手な理屈を作り、我が物顔にこの命の塊である惑星を蹂躙、汚染、破壊し、戦乱に導き、あらん限りの悪行を尽くしている。人間はそのようなことをする使命を帯びてこの惑星に生じたのだろうか？

人間に与えられた使命は、われわれに授かった智慧をいかに使い、すべての生命体を"大調和"に導くということであった。その使命を果たすために遣わされ、それを実現するための試験を課せられ、これに合格するために修行をしている筈なのだが、まったく逆方向の破壊の道を進んでいる。そこには、調和どころか平和も幸福も無い。

欲望は、それ自体は、忌むものではない。大きな欲は人類を、全生命を調和に導く力である。欲を捨て、執着を捨てることを教える智慧も調和のための大きな力である。われわれは、欲望と智慧というこのあい矛盾する二つの武器を、超脱し、制御し調和させることが必要なのではないか。これを実現させるためには、人為ではなく、自然によるしか方法は無いと思える。人為は偽りである。自然とのすべての調和こそが、人の幸福ではないのだろうか。つまり、人間のおごりを捨て、自然の生き方をしていきながら、真善美と一体になり、智慧によって、その喜びを知るのである。そのためには、金も、最先端の科学技術も豪華絢爛たる都市文明も不要である。本能は自然である。本能の一部である欲望は、我欲という小さな仕切りの中に入ってしまったとき不自然なものになる。精神の自然への回帰こそが解決策であり、我欲という小さな仕切りを外してしまうことがそのための第一歩になるのではないだろうか。

今世の中で起こっていることの殆どは、自分のための小さな我欲が原因だ。「起きて半畳、寝て一畳、天下取っても二合半」腹一杯以上は絶対に食べられない。われわれは、過剰に消費し、それでも余りに余った物を処分しようとして、無駄なエネルギーを浪費している。しかし、消費の前に、過剰な生産があることをあまり話さない。

自然のサイクルは、「生産→消費→分解→還元」であり、作り過ぎなければ、あまることは決してない。われわれはなぜ、使い切れないものをたくさん溜め込みたいのだろうか。なぜ、1秒でも早く目的地に行きたいのだろうか、なぜ、夜を嫌い、一日中昼にしたいのだろうか。なぜ、吐くまで食べてもまだ食べたいのだろうか。腹八分目に食べられ、自分の足で行きたい所にゆとりを持って歩いてゆき、家族団欒の生活が送られ、暗くなれば眠り、明るくなれば目を覚ます、そんな生活に戻るべきではないのだろうか。そうすれば、環境問題なんて、私の辞書に無いような事態は起こらないと考えるのだが、いかがだろうか。

日本でも世界中でも、教育改革論議が随分となされているが、「なぜ、国際競争に勝ち、経済の発展を目指さなければならないのか」、私には、本末転倒に思えてしょうがない。「地産地消」「身土不二」「医食同源」自然に帰れ、である。

――――以上。

（※）会員の皆様もご存知のように、11月の神戸で経皮的肝灌流療法という肝癌の先端医療の処置を受けました。その後、抗がん剤の影響で体力が著しく消耗し、現在日常生活が困難なため、床に伏したままです。したがって、今号の会報への出稿が難しい状況にあります。しかし、会長自ら、ほぼ毎日ですが、ブログ（インターネット上の日記）で近況や考えをお伝えしております。最近はこのブログへのコメントが毎日10件程度書き込まれており盛況ではありますが、このブログをご覧になっていない、もしくはなれない方のために今号はブログから会長の記事を抜粋し皆様にお伝えいたしました。（事務局）

○古賀会長からのメッセージです。

案ずるな　冬眠じゃ
死んではおらぬ　生きておる
どこにも行かぬ　ここにおる

◀こんな感じで闘病中です。

もっと詳細に読みたい皆様は
地球市民の会のホームページから
「古賀武夫ブログ」にアクセスしてください。
http://tpa.nk-i.net
ホームページをご覧になれない方は、印刷物もあります。事務局までお問合せください。

会長古賀武夫は、去る3月17日に永眠いたしました。生前のご厚誼を深く感謝申しあげます。

森中紘一
の
ミャンマー幾山河

【第三回】

TPAミャンマープロジェクトと戦争の記憶

TPAミャンマー事業責任者
森中紘一

私がミャンマープロジェクト現地駐在員を希望した理由の一つに、日本軍のミャンマーにおける失敗、悲劇の現場をこの目で確かめたいという個人的な理由もありました。多くの方があの有名な「ビルマの竪琴」を読んで感動したとは思いますが、ビルマで何が起こったのかについて知っている方は少ないと思われます。私はこの赴任を機会に、もっとビルマ戦線について勉強しようと思い、諸氏が書いた戦争の記録を10冊ほど買い込み、仕事の合間に読み進めました。

一九四二年に怒涛のごとく攻めてビルマ全土を占領した日本軍は、一九四四年には制空権を支配した米英印中連合軍に反撃されて、白骨街道と形容されたインパール作戦の悲劇を生みました。ビルマ北部での全滅をかけた壮烈なマンダレーでの戦いを経て、メイクティラーでの決戦に敗れた後は、軍隊の形をなさない、敗走するだけの集団になってしまいます。31万人のうち18万人以上が亡くなったというデータが示す裏には、戦死というよりは病死、餓死のほうが圧倒的に多かったようです。

マンダレー、メイクティラーはビルマの中央部分に位置する平地です。連合軍の空からの攻撃から平野での敗走を余儀なくされた多くの日本兵が考えたことは、「遥かかなたに見えるあのシャン山脈に逃げ込めば、圧倒的な敵の攻撃から逃げられるだろう」というはかない希望でした。

そうです。そのシャン高原にある街、タウンジーを中心とした半径一〇〇Kmぐらいの地域が、TPAプロジェクトの活動範囲なのです。

私は村々を訪問すると様々な戦争の記憶に出会います。

〇TPAが二〇〇五年に建設したカックー水力発電所の配電対象村の一つは、戦場になったため村人が逃げてしまい、長い間廃村になっていたそうです。

〇また、戦争当時少年あるいは青年であったという高齢者がわざわざ私を訪ねてはこう言います。「敗走してきた将校をかくまったお礼にもらった軍刀を買ってくれないか」「65年前に日本軍が発行した軍票をドルに変えてくれないか」また、軍人が使っていたであろう印鑑などを示して「これは何に使用するのか、どんな価値があるのか」と。

〇さらには、このシャン高原を見渡せる山には日本軍が駐屯していた跡があり、今でも軍資金（金塊）が隠されているらしい、等というエピソードも聞きます。

私は休暇にタウンジーから一七〇Kmはなれたメイクティラー（最後の大きな戦いで日本軍が壊滅的な敗北を喫した都市）へ旅行をしましたが、そこでは、今も残る慰霊碑や幾つかの村を訪問して、地元の生存者から話を聞きました。それによると、日本人兵士はほとんど武器を持たず、爆撃、火炎放射等の中で逃げ惑って死んでいったそうです。今は平和な美しい自然の中にある村に立ち尽し、兵士の魂の鎮魂に思いを馳せて、異常な寒気がしたものです。空路ですと僅か20分で飛べる距離ですが、行きは汽車を使い12時間の旅でした。普段の観光旅行なら美しい風景の連続なのですが、餓死寸前の状態で敗走する日本兵の姿を想像しながら景色をみていると、まだ何万という遺骨が収集されずに霊魂が彷徨っていることを考え、人知れず涙が流れてきました。

敗戦の一九四五年からもう63年が経過しています。現在63才の私は当時、赤ん坊でした。あの戦争は我々の父親、祖父たちが行ったことです。しかし、我々は知らないといって逃げるわけにはいきません。日本人としての責任はいつまでも問われます。またなぜ日本は、ああいう愚かな失敗を犯したのかということも、日本人一人ひとりがしっかり考えおく必要があると思います。

一方では、ミャンマーの方々が日本人を責めたりしているわけではなく、その経験に関わらず日本に対しては深い親しみを感じてくれている方々が多いというのが実感です。しかし、足を踏んだ人は痛みがわかりませんので、そのこと自体を簡単に忘れてしまいますが、足を踏まれた人はそう簡単に痛みや事実を忘れていないというのも本当だと思います。

ミャンマーで仕事をしながらこのようなことを考えていました。

以上

ミャンマー　ヤバデー（大丈夫）便り

「ミャンマーの豆腐料理」

ミャンマー事業現地調整員
杉山　史恵

タウンジーに移り住んで早4ヶ月が経ちました。仕事の傍ら、シャン州ご当地ものの探求に忙しくしております。そこで、今回は豆腐の話を致しましょう！

ここで手に入る豆腐は私の知る限り5種類です。日本で一般的な絹豆腐（ヤンゴンではジャパントーフと言われている）は温めて黒蜜をかけてデザート感覚で頂戴します。木綿は中華料理に利用。黄色い豆腐の原料はインド豆（ヒヨコマメ）ですが、揚げたり、熱々トロトロにして麺を加えて頂いたり、サラダにもします。

灰色豆腐はピーナッツですが、サラダのようにキャベツやもやし、揚げニンニク、ゴマ、刻み納豆などを和えて頂きます。もう一種類、原料が豆類ではない白豆腐があるのですが、なんと意外にも米粉からできています。こちらもサラダのように頂きますが、甘みも弾力も欠けたウイロウと言ったところでしょうか。

タウンジーの賑やかな通りの出店には、まだまだ未知の食べ物がいっぱいです。食べ歩きが楽しくて、すっかり体重が増えてしまった杉山でした！

はじめまして！　柴田です。

柴田京子

皆様、始めまして。柴田京子と申します。

ミャンマーに住んで、そろそろ5年になります。

主人（ミャンマー人）と息子（3歳8ヶ月）1人、娘（1歳3ヶ月）の4人家族です。息子はミャンマー語と日本語を自在に操りながら（既に私よりミャンマー語が上手で、毎晩ミャンマー語を教えてもらっています）元気に保育所へ行き、娘はよちよちと歩き始めました。

2006年からTPAでボランティアスタッフとして仕事をさせていただき、4月よりミャンマープロジェクトマネージャーをさせていただくことになりました。子育てと仕事をしながら、大変ですが楽しい日々を送っております。

至らないことも多いかと思いますが、よろしくご指導のほどお願いいたします。

インターン通信

タンボジ日和（^ ^）

2008年 2月 吉日
山内　一平

「第３日目　～それぞれの未来へ～」

日本のみなさん、ミンガラーバー。

ということで、私がミャンマーにやってきてから、早いもので9ヶ月が過ぎようとしております。ミャンマーの2月といえば何といっても「受験」の時期。ミャンマーにおける学年制度は小学1年生から10年生（日本の高校3年生）まであるのですが、どの学年もこの2～3月の時期に進級試験があり、不合格になると「落第」になってしまいます。10年生の場合はこの試験が大学の入学試験となるので、学生にとっては一番大変な時期と言えます。もちろん、タンボジ寮の生徒たちもいつも以上に勉強漬けの日々を送っています。どんな日々かと言いますと･･･朝は4時過ぎに起きて2時間ほど勉強し、空が明るみ始める6時頃から畑仕事を行います。7時に朝食を食べ、8時には自転車に乗り5キロ先の高校へ向かい、学校の補習を終えて寮に戻ってくるのが5時頃。それから空が暗くなるまで１時間ほど畑仕事をし、6時半に夕食、その後は真夜中までずーっとテスト勉強です。

ミャンマーでは乾季のこの時期は頻繁に停電があるのですが、そんな時でさえ寮生たちはロウソクの明かりの中で必死に勉強しています。そんな姿を見るたびに、彼らの大学へ進学したいという強い思いがひしひしと伝わってきて、胸がじーんと熱くなります。ヤンゴンのような大都会とは異なり、地方の小さな村では大学へ進学する生徒の数は非常に少ないため、そのような進路は家族にとってだけでなく、その村にとっても非常に嬉しく名誉なことなのです。もちろん試験は難しく、地方にいくにつれ合格率も低くなってしまうのですが、ここの寮生たちには全員無事に合格してもらいたいと本当に思っています。

今夜も空には数多の星がまたたいており、そんな星空の下、寮生たちは夜遅くまで真剣に勉強に励んでいます。彼らの未来がこの星空のように美しく、輝いたものになることを私は願ってやみません。10年生の卒業試験まで、残すところあと一月。みんな悔いの残らないよう、最後までしっかり頑張ってほしいと思います。そして、3月の末にはタンボジ寮の卒寮式――今回卒寮するのは8名ですが、彼らにはこのタンボジ寮で学んだことを糧にして、自分の夢に向かって羽ばたいていってほしいと思います。

満員御礼!!
自然農シンポジウム

2008年1月19日(土) 午後、高木瀬公民館にてシンポジウム「自然農業から見る日本とミャンマーの未来」を開催しました。

◇なぜ、農業のシンポジウムをしたの？

●日本の農は今、危機的状況にあります。TPAがミャンマーで4年間行ってきた農業支援の成果を、今こそ国内へフィードバック（還元）していきたいと考えるのです。今回はその第一歩でした。

●私たちは「いのち」や「つながってる」ことをテーマとして活動していますが、“農”はまさにその原点とも言えると思うのです。

●食の安全や教育の観点からも、世間の自然食品・有機野菜等に対する関心は高まっています。生産者と消費者を結びつける役割の一端でも担えれば･･･と思っています。

超！豪華パネリスト(奥から)
武富氏、武藤氏、田中氏、平野氏、ファシリテーター(進行役)：大野

パネリストは九州きっての自然農実践者！！

田中欽二氏■元佐賀大学教授、現放送大学佐賀学習センター客員教授。佐賀における自然農普及活動に注力しており、三瀬や神埼の農園管理・指導を行っている。

武富勝彦氏■自然農業で古代米や野菜などをつくり、雑穀を使った商品開発にも積極的に取り組む。2002年、日本人初の「スローフード・アワード」を受賞。

武藤正則氏■ホテル龍登園の野の花農園を一手に引き受ける農園長。多くのお客様にほんとうに体によいものを、という想いで無農薬栽培による有機米・大豆・野菜作りに取り組む。

平野喜幸氏■６年間ミャンマーでNGOとして自然農業普及活動を行い、現在玉名の蓮華院誕生寺に所属しれんげ農苑を開墾。日本古来のお礼肥え精神を大切に研修の受け入れも行っている。

◇どんな内容だったの？

1. 当会理事にして玉名のれんげ農苑長である平野氏より、ミャンマーの農業事情について説明してもらいました。
2. パネリスト４名より、以下のテーマについて熱いご意見と議論をいただきました。
   - あなたにとって自然農業とは
   - あなたが自然農業に取り組む理由
   - 自然農業を取り巻く問題点
   - 自然農業を普及させるための秘策は何か
   - 自然農業の明日はどちらへ向かっていくのか
3. 参加者とパネリストにより、率直で鋭い質疑応答を行いました。
4. シンポジウム終了後、パネリスト持参の野菜に参加者が殺到！あっという間に完売していました。

満員御礼!!
和室でほっこり、しかし議論は熱く！

◇参加者の声（アンケートより）

●化学肥料・除草剤の恐ろしさを改めて感じました。生産者の意識もさることながら、やはり消費者の自然農業に対する意識の向上が必要。子供達にもこの現状（このままだとどうなるのか）を学ぶ機会を作っていただきたい。【消費者】

●保育園で働く上で「食育」「いのち」「農業」など様々なことを考える機会があります。子どもに伝えていく立場の人間として、まずは自分の意識を変えていくことが必要であり、一つ一つの繋がりが日本の食または日本の社会をよりよくするのだと感じました。【保育士】

●農薬（水俣窒素など）は火薬に変わる･･･軍需産業にもなり得るのですね。除草剤は本当に怖いです。【消費者】

●皆さん楽しそうに一生懸命されているのですごいなと思いました。しかし、なかなか普及しなかったり大変な事も多いようなので、厳しい現実を見たような気もします。【農業者】

●今後も自然農（循環型農業、有機農業）に関するセミナーや体験型ワークショップ等を「つながってる」をコンセプトに行いたいと思います。内容についてご意見・ご要望を是非お聞かせください！

日タイ修好百二十周年記念交流

タイ高校生 交流プログラム

十一月二十四日～十二月四日

日本とタイは、一八八七年（明治二十年）に「日タイ修好宣言」を調印し、近代的外交関係を樹立してから百二十周年を迎えました。佐賀では、佐賀県国際交流協会を中心に、オイスカ佐賀県支部、オイスカコスモスの会そして地球市民の会の共催で、記念交流事業を行いました。その記念事業の一環として、地球市民の会が一九八八年より協力事業を行っているクーキャオウィッタヤ校より、校長先生、スラポン先生および3名の高校生が佐賀を訪れ、寒い季節にもかかわらず、心温まる交流がおこなわれました。

クーキャオ校の先生、生徒とホストファミリーの皆様

☆日本到着☆

十一月二十四日（土）クーキャオ校校長のチャイナット先生、英語科教諭のスラポン先生、高校3年生のアリサさん、そして高校2年生のアシポン君とアヌサラさんの計五名が福岡国際空港に到着しました。三名の高校生にとっては、国外旅行はもちろん、飛行機に乗るのも初めての経験。

昼からは、ホストファミリー（浦郷様・下村様・杠様・相良様）との対面交流昼食会の後、各家庭へ。アシポン君は最初の二泊はわたくし窪川の家へ。タイの子たちも、受け入れるホストファミリー側も、皆緊張の面持ち。一一日間大丈夫？お互いまだまだかたい雰囲気。不安で始まる一日目でした。

☆初めて海を見る☆

二十五日（日）は各家庭での交流。我が家に来たアシポン君。「海を見たことがない」と言うので、呼子の七つ釜へ。初めての海、初めて乗る船。わずかな乗船時間でしたが、はちきれんばかりの輝く笑顔。言葉は無くとも、彼の喜びと感謝の気持ちが伝わってきます。彼のさわやかな笑顔を見ると、こちらが嬉しくなり、「ありがとう」という気持ちになります。思いがけない笑顔のプレゼントで、やさしい気持ちになれる日でした。

☆佐賀北部視察☆

二十六日は、天山スキー場で初めての雪を体験。そして植田理事の案内で、浮立の里展示館や古湯の温泉街を見学。そして三瀬の風羅坊でそば懐石をいただきました。この日は佐賀北部を見学しましたが、行く先々で彼らが口にしたのが「紅葉が美しい」という言葉。我々は、普段から目にしてあまり気にかけませんが、彼らにとっては、日本の美しい記憶の一つとなったようです。

☆佐賀県立神埼清明高校交流☆

二十七日は、神埼清明高等学校での交流会。同世代である高校生との交流で自然と顔がほころぶアリサさんアシポン君アヌサラさんの三人。チャイナット校長先生とスラポン先生は、神埼清明高校の設備に驚き、「この学校の運営費は国が出しているのか」など質問をしていました。

チャイナット校長先生が「日本の学校には学ぶところが多くある。ぜひタイの先生方が日本に来て見学できるこのような機会を作ってほしい」と言っていたのが印象的でした。チャイナット校長先生・スラポン先生ともに、タイの子ども達と学校の将来を本気で考える教育者であると感じました。クーキャオ校の生徒を応援する協力者として、頼もしくあり嬉しいことです。

神埼清明高校の生徒と協同で、タイの国旗をかたどった花壇を造り、花壇の前でタイの国家を斉唱。彼らの母国への誇りを感じた時間です。

佐賀県立神埼清明高校にて

☆佐賀県立金立養護学校・称念寺☆

「タイにも金立のような養護学校はあるの？」くったくのない金立養護学校の生徒が、コワモテのチャイナット校長先生に訊ねました。ちょっとびっくりしたチャイナット先生、一呼吸おいてからニッコリと微笑み、「各県に一つずつくらいあるよ。でもまだまだ足りないね」

金立養護学校では、タイの高校生が訪問するのを楽しみに、歓迎会などの準備をしていてくれました。タイの三名もこども達の中に入り、クーキャオ校やタイを紹介。素敵な笑顔で交流を深めました。スラポン先生は、ハンディを持ちながら、縫製やパソコンを駆使して創作活動をする金立養護学校の活動に感動し、「この実践をぜひタイで紹介したい」と先生方の説明に耳を傾けていました。

金立養護学校での交流が、金立の生徒

の皆さんにとって、そしてタイの養護学校の発展にとって、少しでも寄与できるものであって欲しいと願ってやみません。

称念寺では、さまざまな事情を抱え、親元を離れて寺の運営する施設で生活する子たちと交流。西村住職の説明を聞いているときは「この豊かな日本で…」と絶句する彼らでしたが、称念寺で生活する子たちは元気そのもの！チャイナット先生、スラポン先生もニッコリ笑顔の交流となりました。

☆映画『デック』鑑賞☆

地球市民ACTかながわが上映活動を行っている、タイのメートー校の生徒が生まれてはじめて海を見に行く模様を描いたドキュメンタリー作品『デック～子どもたちは海を見る』を鑑賞。映画の中で遠足出発前夜に生徒が興奮で寝付けなくなる様子をみた彼ら、「私たちも日本に来る前夜は寝付けなかったから気持ちがよくわかる！」とのこと。先生方も、「こういうことある、うんうん」という感じで、時には笑いながらの鑑賞でした。

『デック』ですが、今年、佐賀での上映を行います。タイの子どもたちを知り、身近に感じられる作品です。上映の折にはぜひご覧ください。

☆アジアセミナー・交流会☆

一一月三十日のアジアセミナーおよび交流会では多くの感動がありました。まずは、スラポン先生と古賀会長の再会。会長は佐賀不在で、会う予定はなかったのですが、早く佐賀に戻ってくることができ、久々の再会となりました。目に涙を浮かべるスラポン先生。クーキャオ校より地球市民の会に、感謝を表す楯と記念品が贈られました。「もし地球市民奨学金制度が無くなることがあっても、我々の関係は続いていくし、今までの協力を忘れることはありません」とのスラポン先生の力強い言葉に、地球市民奨学金の歴史と意義を再確認しました。

一二月二日に一八歳の誕生日を迎えるアリサさんを祝うためにひそかに用意されたバースデーケーキ。自分のために用意されたと分かると、言葉を詰まらせ、涙を落としました。彼女にとって忘れられない誕生日になったことは間違いありません。

スラポン先生より古賀会長へ記念品の贈呈

☆佐賀県立三養基高等学校☆

ホストファミリーとして、アリサさんアヌサラさんを迎え入れてくださいました、浦郷様が校長を勤める、三養基高校を見学しました。チャイナット校長先生、スラポン先生は、やはり佐賀の学校事情が気になるらしく、説明に熱心に耳を傾けていました。

☆ホストファミリーより☆

今回の交流事業で生徒・先生方をお引き受け下さいましたホストファミリーより、お二方の文章を紹介させていただきます。

〔杠　寛昭　様〕

アシポン君とは、言葉の不自由はありましたが、トラブルもなく過ごせました。与えられた食事も全く食べ残しはありませんでした。ただし、必要としない品には初めから一切手をつけず、日ごろの慎ましい暮らしぶりが想像されました。最近の日本の若者には残念ながらあまり見かけなくなったタイプの礼節をわきまえた純朴な好青年でした。

家族への土産の品を求めに雑貨屋と文具店を訪ねた時のことです。一定の品数、金額を示し、自由に選んでもらいました。いくつかの品を慎重に選んだ後、もう必要ないと途中で遠慮してしまいました。日本の若者なら、これ幸いとまたたく間に買い漁るところでしょう。人間は、必ずしもモノが無いから欲しくなるわけではありません。欲望がさらなる欲望を生むという我が国の現状が身につまされた出来事でした。

〔下村照英　様〕

家内は、先生方お二人を迎える日が近づくにつれ、食事の事やタイ国との気温の差で体調を崩すのではと心配しておりましたが、二人を向かえ気さくな人柄に安心している様子でした。

この機会を縁として、再度里親としてのチャンスがあれば、小額の支援でタイ国の向学心に燃えている、子どもたちの前途を左右できるものであれば支援を続けたいと考えています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回、十一日間の日本滞在でしたが、この紙面では書ききれない出会いや出来事がありました。まずは、この交流事業を支えてくださいました皆様に深く感謝申し上げます。

一二月四日の帰国の日は、ホストファミリーも私も目に涙を浮かべての見送りとなりました。三名の控えめながらも真面目な高校生そして教育に情熱を傾ける二名の先生に、こちらが心を打たれる日々でした。

私はこの三月で地球市民の会事務局を去りますが、ここで学んだことを活かし、地球の次代を担う子たちにできることを、これからも考えてまいります。お世話になりました皆様、ありがとうございました。

（窪川）

“タナ湖”湖面から望む漁村

青年海外協力隊レポート

エチオピア
アベベを生んだ高原の国

青年海外協力隊員としてエチオピアで活動をしている、大神貴謙（ｵｵｶﾞﾐﾀｶﾖｼ）です。この誌面を使って、エチオピアで気付いたことや感じたことをお伝えしています。前回は私の隊員活動の報告も交え、エチオピアのICT事情（情報通信技術）について紹介させていただきましたが、今回は私が配属先の大学の外で取り組んでいる隊員活動について述べてみようと思います。

大神貴謙

タナ湖の普段着の魅力

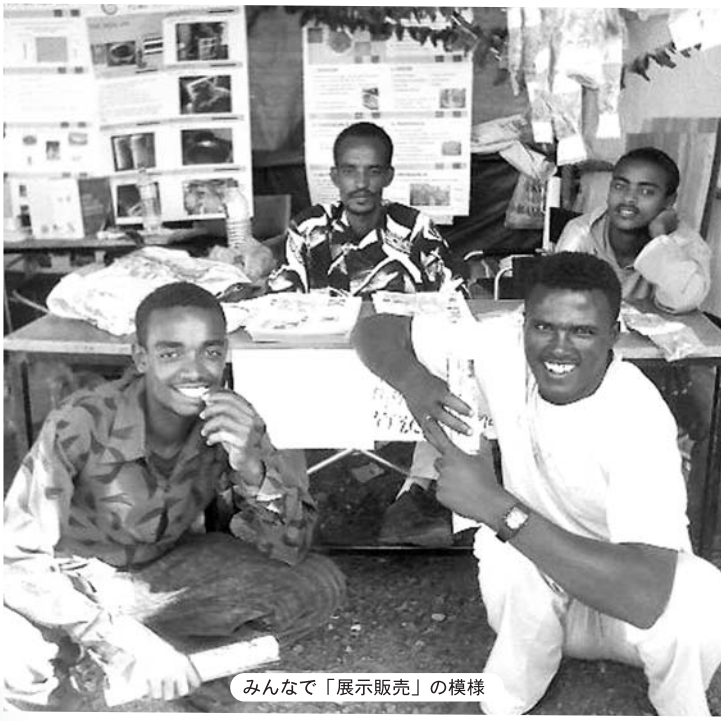
第二回目のエッセイで書いたように、私の任地バハルダールにはタナ湖というエチオピアで最大の湖があります。そして、世界中の多くの旅行者がこの湖を訪れています。ある人は湖に浮かぶ古の教会群を一目見ようと、ある人は遥かなる青ナイルの源流に神秘を感じ、ある人は湖に住む野鳥や水棲生物を観察しに…。しかし、タナ湖の魅力はこれだけではありません。

私は自炊をするのですが、魚を食べたいと思ったときは必ず近くの漁村まで足を延ばします。何故なら、取れたてで新鮮な魚が買えるからです。そして、そこは地元の人たち以外が来ることのない場所ですが、だからこそタナ湖の普段着の魅力に溢れています。漁民の伝統的な住居、賑やかな漁協の様子、パピルス船を漕ぐ漁師たち、おこぼれを狙うペリカンの群れ、青い空と太陽を映す湖面…。これらが一枚絵になった風景は、そこを訪れた全ての人の心に思い出として残ること受け合いです。

一村一品運動への参加

こんな素敵な場所が埋もれているのは残念だと思っていたところ、エチオピアで一村一品運動のプロジェクトが始まるという報を耳にしました。一村一品運動とは、日本の大分県で始まった、市町村が地元に関連した特産品を育てることにより、地域の活性化を図った運動です。もしこの漁村が一村一品運動に参加すれば、その素晴らしさをもっと広く発信できるようになるでしょう。幸いにも漁村には、エチオピアでは珍しい干物作りの習慣があったので、それを一村一品運動の特産品として育てていくことになりました。

漁村の若者たちと一緒に、伝統的な干物作りの方法と日本の干物作りの方法を比較し、幅広くエチオピアの人たちに受け入れられる味の干物を試作しました。干物の品質を安定させるため、皆で製造用のガレージを建てました。街の人たちに干物を買ってもらうため、パッケージにもこだわりました。この干物をエチオピア政府主催の農業イベントに出展したところ、用意した200袋を全て売り切ることができました。今後は干物の販売がきっかけとなり、漁村の魅力が様々な人に伝わっていくはずです。


みんなで「展示販売」の模様

2nd assignmentという考え方

青年海外協力隊の隊員活動は、最初の要請通りに進まないことがあります。要請が出てから隊員が到着するまでには時間がかかるため、状況は変わってしまうのです。また、要請通りに活動を行うだけでは真の問題を解決できない場合もあります。何を行うことが派遣国の役に立つのか、任地に着いてからもう一度見つめ直すことは、協力隊員にとって必須であると思います。この見つめ直しによって気付くことのできた使命を、2nd assignmentと言います。

漁村＝タナ湖＝バハルダール＝エチオピアの魅力をPRすることは、配属先の大学での隊員活動をICT（情報通信技術）の講義からメンテナンスに切り替えたように、私にとっての2nd assignmentの一つとなっています。ボランティアとして役立てる仕事に多く出会えた私は、おそらく幸せ者なのでしょう。

完成した干物

おまけ・漁村謹製干物のレシピ

①水、地焼酎、各種エチオピアンスパイス、塩、タマネギ、ニンニク、蜂蜜で漬け汁を作ります。
②流水で洗ったイズミ鯛を漬け汁に10時間ほど漬け込みます。
③漬け込んだイズミ鯛を3週間程度陰干しすれば、超美味しい干物の完成！

どうでしたか？ この紹介で、少しでも私たちの隊員活動を身近に感じてもらえたら嬉しいです。最終回の次回は、これまでの隊員活動を振り返った感想をまとめてみたいと思います。

第2回 会員のつどい
＆新年会

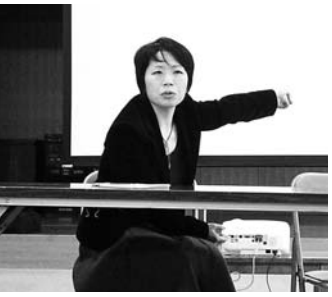
平成20年1月26日、午後３時から地球市民の会事務局近くの循誘公民館にて、第２回会員のつどいを開催いたしました。

“お菓子持ち寄り”という条件付きだったにもかかわらず、たくさんの会員の皆さまにご参集いただくことが出来ました！

可能な限りのコスト削減を達成しつつ、しかも、会員の皆様には喜んでいただきたい！…と、スタッフ一同が智恵を絞って企画開催したのが、昨年（平成19年10月20日）の「第１回会員のつどい」でしたが、この時には会員の皆様へ呼びかけを行い、それぞれの方がお持ちになっている“専門知識”や“特技（？）”のご披露をいただきました。

その内実は、私達の浅はかな想像をはるかに越えた“深さ”と“広がり”のある演目ばかり！…改めて「地球市民の会」に集われる会員さまの『懐の深さ』を実感することとなった次第です。【ちなみに、この時に話題を提供してくださったのは、草場一壽さま・弓削田健介さま、古川康さま、そして事務局の大野博之、といった面々でした♪】

さて、今回お話をしてくださるトップバッターは、熱狂的な隠れファンも多い（？）とウワサの土井美智子さまです。



通訳を生業としていらっしゃる土井さま。しかも！世界中のトップアスリート、アーティストの傍で働かれる機会も多い、インタープリターのお話が聞ける機会とあって、参加者の誰もが興味シンシン!! 期待しない理由などありゃしません!!!とばかりに、参加した誰もが耳をダンボのようにしてお話に聞き入りました。

予想通り（笑）出るわ出るわ、ミーハー魂に火をつける話題がテンコ盛り！「水泳のイアン・ソープさんは、とっても××で驚きました。」とか「マリア・シャラポワさんは本当にキレイでしたよ。まだティーンエイジャーだった頃の彼女は××で…」などなど。すごく、刺激的なお話のオンパレードです。

土井さまのお話の次は、昨年末『古賀英語道場』主催でおこなわれた“英語ミュージカル「いのちのまつり」”の短縮版ビデオを鑑賞。あらすじも分からないほどに短縮してしまったビデオ映像だったにも関わらず、会員の皆さまからは温かい拍手をいただくことができました。

これで、本編を収録したDVDの売り上げが一本でも増えれば…と、俗臭紛々たる私などは、ソロバンを弾いてしまうのでありました（涙）　…あぁ、この俗物め！

三番バッターとして登場されたのは西村尚子さま。

昨年11月に訪問された、タイ東北部の『今』の状況を、多数のスライド写真と共に解説してくださいました。…そんな中でも11月に佐賀を訪れたタイの高校生(※)たちの、日常的な暮らしを収めた写真には、参加された会員さまの誰もが熱い視線を注いでおられました。

（※NETWORK TERRA 今号 6～7ページ参照）

そして、今回のミラクルヒット（？）をかっ飛ばしてくださったのが、最終バッターの土井敏弘さまでした！

土井さまは“お茶”を販売していらっしゃるのですが…そのお忙しい茶摘み娘(？)作業の合間に趣味として続けてこられた、楽器「チューバ」の演奏を披露して下さいました♪

土井さまは、地球市民の会の理事を長くやっておられますし、お仕事もご多忙でいらっしゃりながら、なんと！九州屈指の技術を持っていらっしゃるというではありませんか!!　…『忙しい人ほど、多くのことを学ぶ』と言われているのは本当なんですね！

土井様いわく「“チューバ”単独の演奏はとても珍しいですよね。私も初めてです（笑）普通、金管楽器というとトランペットなどが有名ですが。これら金管楽器は、オーケストラの場合だと、最も低い音のパートを担当しています。」と、おっしゃるや否や下腹に響いてくる重低音で、ディズニーアニメの名曲『星に願いを』ともう１曲。…都合、２曲の演奏をご披露してくださいました。

吹奏楽（ブラスバンド）の世界では、九州でも常に1､2を競う腕前なのだそうです！“全身で音楽を感じる”とは、まさにこのこと！普段お会いするときには、微塵もうかがい知ることが出来ない、会員の皆さま方の“もうひとつの顔”。…「会員のつどい」は、ご要望の多い企画でもあり、ご参加してくださった方々からも、好評を得ておりますので、ぜひ第３回目の開催を計画したいと思っております。話題をご提供いただいた皆さま。本当にありがとうございました！

会員のつどいの後は、『辛辛（カラカラ）パーティー～韓国チゲVSタイ・トムヤンクン！～はたしてどっちが辛いか!？　あなたの舌で確かめませんか？』と題した新年会。ほんわかとしたムードの中、お酒の力も手伝って、様々な会話に花が咲いておりました♪　…食事の準備から後片付けにいたるまで、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます！ありがとうございます！　（落合）

●今後も、楽しい企画満載で「会員のつどい」を開催したいと考えています。内容や会場、その他ご提案などがございましたら、是非ご意見・ご要望としてお聞かせください！　→TEL：0952-24-3334 または E-Mail：office@tpa.nk-i.net まで!!

出会いに感謝、感動をありがとう

19年度
おかしら
こがしら紹介

卒園、卒業のシーズンです。おかげさまで、タマテ箱（土ようタマテ箱、月～金タマテ箱）も19年度を終えようとしています。
この一年、いろいろな方々との出会いの中で楽しい経験や驚き、発見といった体験をすることができました。ここに感謝の意を込めて、これまでにご支援、ご協力いただきましたおかしらの方々をご紹介させていただきます。

前田星萠（華道）

一年を通して創造する楽しさを学びました。

坂井邦夫（農）

天の恵み、食・いのちの大切さを学びました。

井上英史（自然科学）

スティファニー・スミス（英語）

一年間、明るく楽しく英語と触れ合うことが出来ました。

橋村エリザベス（英語）

土ようタマテ箱第一期から、子ども達に柔道の楽しさを教えて下さいました。

森田次男（柔道）

おかしら

古川久美子
弓削田健介
内田信子
坂井邦夫
金子信二
八島正智
鳥越義則
elSOUL 永吉輝美
副田ひろみ
井上英史
森田次男
久我秀樹
高木淳剛
古田悦子
佐賀友の会 内田南美子
道の駅鹿島
前田星萠
八谷和歌子
久保基行
肥前名尾和紙工房
橋本洋一郎
大野博之
北原香菜子
富永將暉
白濱美保子
葉隠舞神
山口慶子
山下春美
田中裕子
落合精一

こがしら アシスタント

潟手真里子
右近聡子
畑地明日香
森下佳織
重松孝信
吉村優子
片山ゆう子
石垣敦至
武藤佳祐
青木絵実子

こんなにたくさんのおかしらに教えて頂きました！
※お名前の表記は、順不同・敬称略とさせていただきました。

4月 夢の学校タマテ箱スタート!!

よろしくお願いします。

2004年2月、夢の学校設立準備会が産声を上げ、同10月に週末プログラム「土ようタマテ箱」、2006年に放課後プログラム「月～金タマテ箱」がスタートしました。そして、2008年、全日制プログラムにつなげるため2つのタマテ箱を統合、「夢の学校タマテ箱」として新たな一歩を踏み出します。夢の学校をつくる会では、これからも「地球が教室、毎日がいのちのまつり」を合い言葉に、子どもも大人も共に学ぶため日々前進していきたいと思っています。これまで同様に、ご支援、ご協力を賜りますようお願いします。

ネットで元気な情報発信中!! ▶ 夢の学校 検索 Click!!

「夢の学校にかける思い」③

思い込みをはずせば、新しい可能性が見えてくる

副理事長
土井美智子

私たちは知らず知らずのうちに色々な固定概念に縛られていることが多い。

たとえば、「学校」だったら、当然このくらいの広さで、これとこれがあるべきだと思ってしまう。それからすると、私たちの会は小学生を対象としたプログラムを実施しているものの、ないものだらけ。けれども、おおかた楽しく多彩なプログラムを展開できているのは、担当者の日々の創意工夫があるのは確かだが、参加している子ども達の常に何かを見つけ出す力と、ありのままに添う力とによるところが大きい。

かれらは、なにがなくても一向に気にしない。もしかしたら、これは人間本来の資質なのかもしれない。

私たちの会は、いわゆる設備のそろった施設を持たない。だから、必要に応じて地域にある施設を利用させてもらっている。近所の本屋や図書館、美術館、プール、銭湯、近くの神社の境内。そうやって見ると、地域は資源にあふれている。町全体が学校だと思うと、そこにないものはないと言ってもいいくらいだ。プログラムを通して、子ども達はそれらの資源の在りかを知るとともに、それぞれの利用の仕方やルールを学んでいく。やがて、自ら資源の調達をする子もでてくる。ある日、秘密の基地を作るべく近所の電気屋さんからダンボールをもらってきた子がいた。どういうふうに交渉したのか考えるだけでも愉快だ。ささいなことかもしれないが、自分が働きかけることで何かが動くことを体感するいい機会だ。また、子ども達は地域の方々の温かさを、まるで空気を吸うように自分の中に取り込んでいく。ここでも町は資源にあふれている。

なにがなければという思い込みをはずすと、元々在るものに気づく。工夫することで新しい方法が見つかる。そして、その過程を子どもたちと一緒に辿ることが「共学」なのだと思う。私たちの会が目指す全日制プログラムの実現は、かかわる大人がどこまで思い込みをはずし、新しい可能性を見ようとするかにかかっている。子どもたちに問題なし。

シリーズ「私の考える教育とは?」③

何故いま「筆文字」なのか

芸術(書道)おかしら 富永將暉

今、夢の学校「月～金タマテ箱」で筆文字の指導をしています。「指導」とは言っても、児童の溢れる創造力に引っぱられ覚醒させられているのが現実。ここでの先生はむしろ先醒している子ども達です。指導方法では、子どもの自発性をまって自然に創造力を引き出すお手伝いをするため、下手な自分のお手本は使わず、時代をくぐり抜けてきた文字の古典を如何に提供するかに腐心します。開けたとたん白髪に老けてしまう玉手箱は最悪です。停滞を嫌う彼らの食指が開けるのは、生きる力を奮いたたせる玉手箱でなくてはならないからです。

蒼海、梧竹については、すでに御承知のことと思います。一つ違いの先輩中林梧竹と後輩にあたる副島種臣(号、蒼海)は、明治時代に活躍した人物で、動物に譬えるならば虎と龍のような存在。特に二人が遺した書は、趣きこそちがえ百代も千代も輝くだけの無限の魅力を秘めた文字の玉手箱とも呼べる代物。フタを開ければ、いつまでも飽きない薫りを放つ珠玉の文字が一杯詰まっています。現在、この二人の筆文字をお手本にしながら、手書きによるオリジナルカレンダー作りに向き合っています。

「書は散なり」と弘法大師は申されています。「自由であれ、自在であれ。もっともっと」と説法が聞こえてきます。教育界も含め現代社会のあらゆる面に蔓延している管理化の波。書や文字も例外ではなくその潮流に呑み込まれ、書き文字文化は霞の彼方に消え失せ、パソコンの爆発的な普及によって無機質な"打ち文字"に乗っ取られようとしている今こそ、空海のこのフレーズに目を注がなければ、日本人に本来備わっている心やからだの自由な働きを失ってしまう結果を招くのは時間の問題です。

新生のよろこびを持ち続けることが精進ならば、筆は言葉(メッセージ)を書く行為をとおして精進しながら人間性を磨くツールとしてはいの一番のお勧め品です。昔から日本では「散らす」と名づけて、色紙や短冊などに行を揃えず書くことを特に「散らし書き」と称して、筆による自由な振る舞いを受容する情緒的センスを持ち合わせている国民性が私も含め皆さんの中にDNAとして組み込まれています。これからも筆を武器に自らの手で自らを解放する時間と空間を少しでも取り戻すべく、水茎で(書き文字)文化を守り、発展させる運動に身を挺して生きる覚悟です。

ご協賛ありがとうございます★　阿部由美さま（宮城県）、村上珠美さま（福岡県）、森永勝馬さま（佐賀市）、今心工房（武雄市）

夢！感動！情熱！

OB，OG，卒業生は宝物です

ボリビア音楽の仲間達と（中央）

古賀道場“先輩シリーズ”第3弾

前回(2回目)は、薩摩琵琶奏者として世界そして時空を超えた活躍をしている北原香菜子さんが登場。「佐賀で第二の古賀武夫になる！」と宣言してくれました。今回も道場を代表するパワフルウーマンの一人、中南米（ボリビア）大好き、好奇心・探究心いっぱいの梅崎かほりさんです。

道場からボリビアにひっと出た！

梅崎かほり

「泥棒！誰か！」

走り抜ける少年に、ざわめきが起こり、所狭しと並んだ店の軒先からいくつもの顔が覗く。ボリビア、コチャバンバ市の名物でもある常設市、”カンチャ”では日常の風景なのだろう、注がれた視線も程なく散り、空気はあっという間に平常に戻る。この市場の片隅の、織物売りのオバちゃんと一緒に店番をしながら午後を過ごすのは、私の楽しみの一つだ。彼女の故郷の話、家族の話、他愛ない世間話をしながら、行き交う人々を眺める。様々な地方の民族衣装をまとった卸売り、様々な社会階層のお客たちに、物乞い、ひと目でわかる観光客。それぞれの顔に合わせて値段を変え、言葉も変えながら接客する、商売上手な市場のオバちゃんたち。どんなに難しい本を一冊読むより、インタビューを重ねるより、ボリビアという国がよく見える。

ボリビアは現在約九八〇万人の人口を有する、南米でも最も貧しい国だ。この地方の音楽に惚れこんで、言葉も分からずに飛び込んでから、早十年。はじめはただメロディーに惹かれたこの国の音楽が、力を持たぬ民衆の声だと気づき心を動かされた。様々な顔を見せるボリビア文化に興味をもち、人々のたくましさに学びたいと思い、大学院でボリビア研究を始めた。二〇〇一年には在ボリビア日本大使館での仕事を見つけ、悩む間もなく二年間の在住を決めこんだ。行ったり来たりの十年間ですっかり第二の故郷になったボリビアは、日本では鈍りがちな感覚を研ぎ澄ましてくれる。食べるとき、歩くとき、人と向き合うとき、贅沢に慣れ、平和ボケした自分の姿勢にぴしゃりとやられ、生きることについて考えさせられる。だからこそ、無駄な迷いや世間体に振り回されることなく、今あるものに感謝し、楽しむことができる。私にとって「ボリビア研究」とは、ボリビアを通して自分を、自分の国を見つめることだと思っている。研究の傍ら、ボリビア音楽の演奏活動と文化広報も趣味として続けてきた。

このようなボリビアと私との付き合いの原点は、一見無関係なようで、間違いなく道場っ子として鍛えられたあの頃にあるのだ。古賀英語道場では七歳から英語を学び、十一歳で参加したアメリカ合衆国へのスタディツアーで「言葉で通じ合える喜び」を味わってからは、毎日道場へ通うほどの熱狂ぶりだった。言葉ひとつで自分とは見た目も境遇も全く違う人と対話ができることに感動し、外国語を学ぶ楽しさと、外の世界を知る面白さをおぼえた。

地球市民の会では中学生のころ”地球子供サミット”に参加し、同年代のタイの子供たちとふれあい、意見交換をした。今思えばそれが、発展途上国と呼ばれる国の人との最初の交流だったが、彼らの屈託のない笑顔を見て、子供心に彼らの「豊かさ」を感じ、また「持てる国、日本」に対する疑問をもったのを覚えている。もしこれらの経験がなかったら、たとえ同じようにボリビアと出会っても、興味ももたぬまま素通りするだけだったかもしれない。そしたら、三十にもなってまだ学生！ではなく、「立派に」就職していたかもしれないが、私の中の世界地図には南米大陸もアフリカ大陸も、アジア大陸の大部分もなかったかもしれない。出会った人も風景も、半分以下だったかもしれないのだ！

古賀武夫先生、そして道場とＴＰＡで出会った皆様、愉快な人生をありがとうございます。そして私も誰かの愉快な人生のきっかけになれるよう、ますます精進すっけんね！

2007年 調査地（チカマロ）にて農作業

梅崎かほり（うめざきかほり）

1978生　佐賀西高　慶応大学、同大学院卒。小２～高3まで古賀英語道場で学ぶ。大学で、ボリビア音楽の演奏活動を始め、同4年でボリビア研究の道へ。その後3年間、在ボリビア日本大使館で勤務。パワフルな行動力で、国際的な音楽祭でも日本代表、親善大使を務め、現在も大学で研究を続ける頼もしいOGです。

次号も、宝箱をあけて素晴らしいOB・OGに登場して頂く予定です。ご期待下さい！

街頭募金始めました！！

ボランティアのお願いです。

ミャンマー及びタイの教育環境を改善することと、活動をPRするために街頭募金を始めました。現在火曜日に事務局員が佐賀駅か佐賀玉屋前で行なっています。お手伝いが可能な方は一緒に街頭に立ってみませんか？結構面白いですよ。1回に1時間半程度しています。お手伝いが増えれば、土曜日にも実施しようかなとも思っています。

事務局のブログ（日記）がホームページに登場!!

ブログに書き込みをお願いします。

ホームページに事務局員による日記が不定期に掲載されています。タイ、ミャンマー、スリランカのお話や事務局員のひとりごとなど、話題満載でお送りしています。一番新しい写真も掲載されています。是非皆様にご覧いただき、出来ればコメントなどを残していただくとうれしいです。

http://tpa.nk-i.net/blog/

ちょこっと花言葉★

山桜（ヤマザクラ）「あなたにほほえむ」

スタッフのひとこと　私のミーハー話

※ミーハーとは流行に熱中しやすい人、程度の低いことに夢中になっている人のことです。

地球市民の会

大野博之　私はイギリスのロックバンド、クイーンのボーカル、故フレディ・マーキュリーのミーハーです。最近のTVコマーシャルのBGMでフレディの声が聞こえたら、どんな商品でもそれは良品だと断定できます。それは、良い！

窪川　智　作る時間も無いのに集めたF1モデルコレクション。ロータスホンダ99T、ウィリアムズFW11に始まり、ベネトンB188、一連のマクラーレン、フェラーリシリーズ、ロータス101Tのレジンキットも有ります。あと欲しいのは1／20レイトンハウスジャットです。

畑　恵子　ツールド・フランスを追っかけるために、フランスを自転車ツーリングしてました。特別ファンではないけれど、有名な選手には黄色い声援を上げ、激写してたり…。

落合清一　ミーハー話…ミーハー話。。。あ、『トトロ』の歌を唄ってた井上あずみさんと飲んだとき。ヘロヘロメロディの『さんぽ♪』で盛り上がったぞぉ～！　…っていう話はどうでしょう？　あ、そうそう。天地真理さんも大好きでした！　…大むかし（笑）

古賀英語道場 空手道場

古賀洋子　私の趣味は、寝る前に布団の中で楽しむ読書。特に好きなジャンルは、軽いミステリー。でも、１日平均3～4ページしか進まないのでこの前読んだ900ページほどの「白夜行」は、読み終わった後、話の筋が理解できなかったので、レンタルビデオでおさらいして初めて完了しました。

山下春美　旅行会社のOL時代、お客様に浜田省吾（ハマショー）、コロッケ、モッくん（本名？）、浅野温子がいた。でも、ミーハーでなかった私はハマショーがあまりにも地味だったので認識できなかった。＆今は亡き出門ヒデが私の上司役、今はいづこの松原千明が同僚役でドラマの撮影に来た時は、流石にミーハー丸出しになった！

夢の学校をつくる会

相良伸武　好きなサッカーも年とともにだんだんときつくなってきました。好きな選手などの話になると、皆ミーハー話に花が咲きます。それでも、好きな仲間とガッハッハと笑っている時が一番楽しいですね！

吉村　薫　う～ん。ジーパンに大きなベルトをしていた時“おおかあさん、その年でそんな格好する人あまりいないかも？”と子どもの声。流行のファッションが好きな私。これってミーハー。

秦　智美　日帰り程度のプチ旅行が好きなのですが、どこに行っても興味の矛先は食べもの。現地の史跡もまわらずに、おいししものを求めてウロウロ。写真も食べ物ばかり撮って…いったい何しに行ったのかと帰中は反省会。

■編集後記

2007年度もお世話になりありがとうございました。2008年度はどの組織も飛躍の年にすべくスタッフ一同頑張ってまいります。でも、私たちだけではうまく行かないことも多くあります。皆さまのサポート、是非にも必要です。よろしくお願いしますね。

地球市民ネットワーク

■北海道地球市民の会
〒061-3214　北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功　事務局長／新保知博
TEL・FAX：0133－74－1296

■地球市民の会ふくしま
〒963-8681　福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
㈱石黒
会長／事務局担当　石黒秀司
TEL：024－959－6426
FAX：024－959－6577

■地球市民の会東京
〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典　事務局長／青木高広
TEL：03－3662－0331
FAX：03－3662－0400
E-Mail：aoki@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ
〒231-0821　神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子　事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX：045－622－9661
E-Mail：port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ
〒501-6241　岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治　事務局担当／平井八重子
TEL：058－391－5415
FAX：058－391－8600

■地球市民みえの会
〒514-0027　三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之　事務局担当／秋葉幸信
TEL：059－226－5700
FAX：059－224－8911
E-Mail：miemiemiemie21@hotmail.com

■地球市民の会京都
〒605-0873　京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子　事務局担当／西田一貴

■神ノ戸有頂天倶楽部
〒657-0045　神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長／松元隆司　事務局担当／大西陽治

■愛媛地球市民の会
〒790-1121　愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産園内
会長／篠崎和夫　事務局担当／丹生谷宗久
TEL：089－963－3772
FAX：089－963－3795

■北九州地球市民の会
〒802-0006　福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎　事務局担当／大山研児
TEL：093－521－8181
FAX：093－551－2296

■地球市民の会福岡
〒814-0164　福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
㈱増屋内
会長／増田誠司　事務局担当／西村和寿
TEL：092－801－5888
FAX：092－801－5789

■（特活）コミネット協会
〒861-8039　熊本市長嶺南2丁目5-31
会長／山口久臣　事務局担当／富田、田中
TEL・FAX：096－387－7139

■古賀英語・空手道場
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－25－2295
FAX：0952－26－4922

■夢の学校をつくる会
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952－22－6262
FAX：0952－26－4922

ネットワーク・テラ春号　VOL.130
発　　行／特定非営利活動法人　地球市民の会
〒840-0822　佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL:0952-24-3334　FAX:0952-24-7321
発 行 日／2008年4月1日
発 行 人／古賀武夫
編 集 人／地球市民の会 事務局
印　　刷／㈱サガプリンティング

テラコンソーシアム　スタッフ一覧

地球市民の会	事務局長	大野　博之
	奨学金・国内事業・総務	窪川　　智
	ミャンマー事業	畑　　恵子
	広報	落合　清一
	タイ事業担当ボランティア	西村　尚子
	庶務ボランティア	納富　ハヤ子

古賀英語・空手道場	事務局	古賀　洋子
		山下　春美

夢の学校をつくる会	事務局次長	相良　伸武
	教務主任	吉村　　薫
	たまて箱担当	秦　　智美

行事予定

地球市民の会

4月

26日(土) 14:30～16:30

【会員の「つながってる」つどい】
本話題提供者は現在調整中です。
17:00からは願正寺（歩いて5分）での音楽会「てらおん」へ合流します。（ご希望の方）

「ちょぼらタイム」始めます。

ちょぼらタイムはちょっとボランティアしてみようかなという人の参加プログラム。お茶を飲みながら、ちょっとした作業をして、タイやミャンマーの話を聞きながら、仲間作りをする、そんな「ほっこり」した時間を過ごします。

日時）第1、3土曜日　1:30～3:00
（4月は5日と19日です）

内容）おりボラ（チラシ等の折作業）
きりボラ（古切手などの整理）
つめボラ（書類の封筒入れ）
かきボラ（宛名書き　など）

場所）地球市民の会事務局

5月

24日(土) 14:30～16:30
場所）佐賀市民会館第1会議所

【平成20年度第7回通常総会】
本年度も総会を実施します。
会員さんの参加が無ければ総会が成立しませんので、是非ご参集ください！！

当日の第2部は音と映像のイベント
●ミャンマー･レクイエム
●ヌチヌグスージ～いのちのまつり～
を実施する予定です。
感動のプログラムを準備する予定です。

また、第3部として
「地球市民大懇親会」も予定しています。
4月に詳しいご案内をします。

6月

上映決定

※申し訳ありません！！ 詳細は未定です!!!
会場等を最終的に詰めているところです。
改めて、ご案内いたしますのでホームページ等にもご注目ください★

古賀英語・空手道場

6日(日) 9:00～17:00
場所）佐賀県総合体育館
【第32回佐賀県空手道選手権大会】

【第28回古賀英語道場英語劇祭】
英語ミュージカル「いのちのまつり」
オリジナル挿入歌
「みんなのうた ～いのちのまつり～」
「ご先祖様かぞえ歌」
日本語バージョンCD化決定！！

ご期待ください★

映画上映会 デック 子どもたちは海を見る

地球市民の会の姉妹団体[地球市民ACTかながわ]が上映活動を行っている、タイのメートー学校の子ども達が生まれて 始めて海を見に行く模様を作品にしたドキュメンタリー映画「デック 子どもたちは海を見る」を佐賀でも上映いたします。
詳しい予定はホームページ、メールマガジンでご確認ください。

メートー学校はタイ北部チェンマイ県にある少数民族のための学校。
地球市民〔ACTかながわ〕が現在も支援を続けています。
かつては、地球市民の会が学校建設を手伝ったことがあります。

下旬
【佐賀市スポーツ少年団空手道大会】

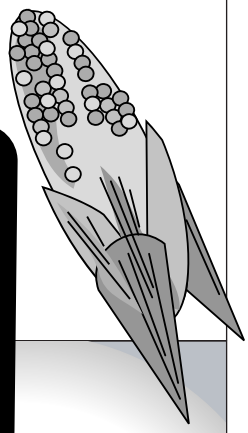
夢の学校をつくる会

【夢の学校タマテ箱スタート！】

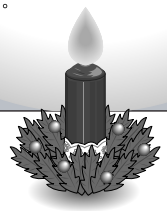
ようこそ新入生♥

【平成20年度第3回通常総会】

【夏野菜の苗植え】
【特別プログラム第一弾！】



【キャンドルナイト参加（予定）】

■「キャンドルナイト in さが」は、いっせいに灯りを消して地球環境問題を考える「気づきのイベント」として、2003年から100万人キャンドルナイトとして開催されている全国規模のイベントです。

■私たち『夢の学校をつくる会』は、今回「夢の学校タマテ箱」の子どもたちと共にこのイベントに参加することで、それぞれに何かしらの気づきを得てもらうことが出来ればと願っています。